

事業日誌 (2012年4月～6月)

■研究会など

- ・地域づくり研究会 (4/28)
- ・ESD 関連ヒアリング調査 (4/11 岡山、5/15 愛知、5/28 宮城)

■講演、シンポジウム、学会など

- ・【報告会】都市政策研究所 研究報告会 (4/24)
→ 右欄「トピック②」参照
- ・【講演】工場管理力向上プログラム利活用促進セミナー (5/17、ベトナム・ハイフォン市)
- ・【講演】鹿児島県ものづくりセミナー (5/23、鹿児島市)
- ・【講演】九州経済連合会 熊本地域委員会 (6/1、熊本市)
- ・【学会発表】産学連携学会 (6/14・15、高知市)
- ・【講演、コーディネータ】田川広域連携シンポジウム (6/23、田川市)
- ・【講師】みやこ町平成24年度第1回まちづくり勉強会ワークショップ (6/23、みやこ町)

■報道 (専任教員のコメント掲載・放送)

- ・NHK 総合 (九州沖縄)、4/1「アジアンパッション ー目指すは“メイド・イン・ベトナム”」
- ・NHK 総合 (全国)、6/1「アジアンパッション ー目指すは“メイド・イン・ベトナム”」
- ・NHK ワールドプレミアム (海外)、6/28「アジアンパッション ー目指すは“メイド・イン・ベトナム”」
- ・読売新聞、4/5、34面 (社会面・西部本社版)「自治再生 地域の未来のために<2> 人、カネ 市町村助け合い」
- ・リクルート『R25』No.305 (2012年4月5日号)「橋下知事が「道州制」を目指すワケ」
- ・西日本新聞、4/23、11面「「わが町のスポーツ」岐路に 拠点づくり推進事業 迫る助成金打ち切り」
- ・読売新聞、4/24、北九州版「ギラヴァンツ北九州 スタジアム観戦は1割 市民意識調査」
- ・KBC 九州朝日放送、4/24、『KBC ニュース』、「ギラヴァンツの認知度向上、大学の意識調査」
- ・西日本新聞、4/25、北九州・京楽版「市民の球場観戦1割 J2昇格後も横ばい 成績、アクセスが鍵 北九州市立大・市民調査」
- ・朝日新聞、4/27、北九州版「ギラヴァンツ赤字 2011年度初の債務超過に 「集客のきっかけを」」
- ・読売新聞、6/26、地域面 (福岡県共通)「アビスパ、ギラヴァンツ 観客激減ため息」

トピック

① 関門地域共同研究 成果報告会を開催します

北九州市立大学都市政策研究所と下関市立大学附属地域共創センターが共同で設立している「関門地域共同研究会」は、平成6年度から関門地域に関する様々な調査研究を行っています。

平成23年度は、関門地域における「斜面地居住の課題」「商店街活性化の課題」「女性の就業」をテーマに調査研究を行いました。このたび、その成果報告会を下記の日時、会場で開催いたします。

日時：平成24年7月12日(木) 13:30～16:50

場所：海峡メッセ下関 8階 801大会議室

(下関市豊前田町3-3-1 山口県国際総合センター)

お問い合わせ：本研究所 TEL.093-964-4302

② 都市政策研究所 研究報告会を開催しました

本研究所が平成23年度に取り組んだ地域課題研究(北九州地域が抱える多様な課題やこれからのまちづくりのあり方に関する研究)の結果について報告する研究報告会を、本年



4月24日(火)14時から、小倉北区の西日本総合展示場新館会議室において開催し、50人の市民や行政機関のかた等にご参加いただきました。厚く御礼申し上げます。

【当日の研究報告】

内田晃「LRT化による若松線の再活性化に向けた基礎的考察」
南博「2012年シーズン開幕直前のギラヴァンツ北九州に対する市民意識」
吉村英俊「北九州市の創業及びベンチャー企業の実態」
伊藤解子「都心居住に関する市民意識」

都市政策研究所資料室・新着図書

- ・地方財政白書 平成24年版
- ・ブリタニカ国際年鑑 2012年版
- ・アジア動向年報 2012版

[編集・発行]

公立大学法人

北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方4-2-1

Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300

E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp

URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

NEWSLETTER No.61

July 1, 2012

INSTITUTE FOR URBAN
AND REGIONAL POLICY STUDIES,
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,
KITAKYUSHU CITY, JAPAN

都市政策研究所
ニュース

THE NEWSLETTER OF INSTITUTE FOR URBAN AND REGIONAL POLICY STUDIES

進め！ ギラヴァンツ北九州

北九州市立中央図書館 × ギラヴァンツ北九州 × 市・本研究所等によるコラボレーション

北九州市立大学都市政策研究所は、北九州市、ギラヴァンツ北九州後援会（事務局：北九州商工会議所）と共に「ギラヴァンツ北九州を支援する市民会議」を設立し、ギラヴァンツ北九州を活用した地域活性化に向け、様々な活動を行っている。その一環として、平成24年4月から、北九州市立中央図書館と連携し、同図書館の入口ホールにおいて、ギラヴァンツ北九州やJリーグに関連する各種情報、書籍、そして本研究所で取り組んできた研究成果等の展示、また各地の観光情報の展示を行っている。

なぜ“図書館とJリーグ”なのか。それは、図書館が「地域の情報拠点」の特性を有し、またJリーグの各クラブと同様、「地域密着」の存在であることに起因する（これは本学のような公立大学にも共通する機能・役割とも言える）。ギラヴァンツの情報を発信することで図書館の新たな機能をアピールすることや、来館者の増加が期待でき、Jクラブ側にと

っても新たな情報発信の場として期待できる。さらに図書館は全国にネットワークを持つため、Jクラブがある地域同士で相互に情報提供等を行いやすい。こうした点に着目し、鳥取県立図書館など全国有志の公共図書館では、文部科学省、Jリーグ等の理解と協力のもと、数年前から図書館を舞台にした様々な情報発信に取り組んできている。

北九州では昨年度に本学魚町サテライトで暫定的な展示を行った。本格的な展示は今年度からスタートし、各地の図書館やギラヴァンツサポーターの御協力の下、概ね2週間ごとに展示内容を更新し情報発信に努めており、また全国各地の図書館でギラヴァンツ関連の展示（本研究所の研究成果含む。）を実施いただいている。是非、北九州市立中央図書館で展示をご覧いただき、さらに市立本城陸上競技場でギラヴァンツの試合を観戦いただければ幸いである。

（都市政策研究所 准教授 南 博）



写真1 展示開始時のセレモニー(2012年4月3日)

鳥取県立図書館と連携し、ガイナール鳥取や鳥取観光関連の展示を実施。ギラヴァンツのマスコット「ギラン」も登場。



写真2 2012年6月26日における展示状況

愛媛県立図書館と連携し、愛媛FCや愛媛観光関連の展示を実施。ギラヴァンツ関連書籍の展示も充実に。

生活不利地域の一人暮らし高齢者の社会関係 地域活動への参加の比較

都市政策研究所 教授 石塚 優

生活不利地域と称される斜面や坂道・階段の多い地域に居住する一人暮らし高齢者の近所の人との付き合いや居住地域の行事や祭りへの参加、町内自治会や団体への参加について、夫婦のみ世帯や子ども等との同居世帯(以下、同居世帯)との比較に基づいて、社会関係の特徴を検討してみた。調査への回答者数は北九州市に居住する 1,051 人、調査時期 2009 年 2～3 月である。図 1 は対象者の性別、年齢区分別の世帯構成を示している。全体では世帯構成が各 3 分の 1 と均等であるが、属性別では女性の一人暮らしが多く、年齢では高くなる程一人暮らしが増加傾向を示し、80 歳以上では同居世帯が増加する。

図 1 対象者の属性別世帯構成

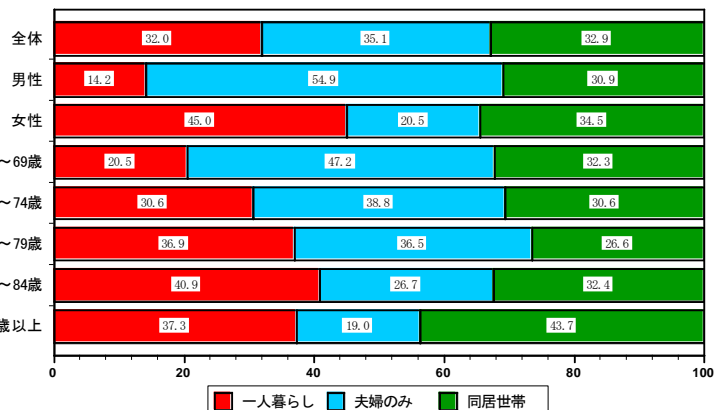


図 2 近所の人とのつきあい方

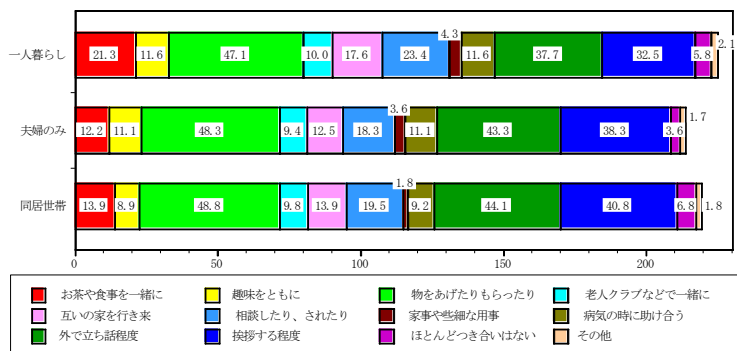
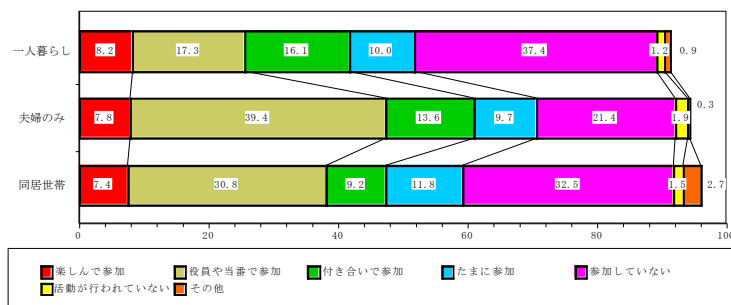


図 3 自治会活動への参加



1 近所の人とのつきあい方

図 2 には近所の人とのつきあい方を世帯構成別に示した。これを見ると、一人暮らし世帯の方が、「挨拶程度」や「外で立ち話程度」の付き合いは他の世帯と比べて少なめであり、「お茶や食事を一緒に」「物をあげたりもらったり」「互いの家を行き来する」「相談したり、されたり」等は多めである。前者の「挨拶程度」や「外で立ち話程度」は会話は多いが浅い付き合いであり、後者の「お茶や食事を一緒に」「物をあげたりもらったり」「互いの家を行き来する」「相談したり、されたり」は親密な付き合いといえる。ただし、後者の「お茶や食事を一緒に」には一人暮らし高齢者を対象とした食事会が含まれていると推測できるため、これに関してはそのまま親密な付き合いが多いとはいえないし、「物をあげたりもらったり」も儀礼的な場合も含まれるために同様のことがいえる。回答は複数回答であり、付き合いのある人を想定した回答結果とすれば、一人暮らしの方が付き合いも多く、親密な付き合いも多いという結果が得られ、他の世帯に比べても孤立していないことが分かる。

2 参加している(いた)団体や自治会活動への参加、役員経験、地域の行事や祭りへの参加

図 3～6 には自治会活動への参加、自治会の役員経験、地域の行事や祭りへの参加やこれまでに参加したことのある

る団体について示している。図から明らかな通り、団体への参加、自治会活動への参加、自治会の役員経験、地域の行事や祭りへの参加の全てで夫婦のみ世帯が最も活発であり、一人暮らし世帯は最も参加が少ない。このように、近所の人との付き合いでは親密な付き合いが多いと思われる一人暮らし世帯であるが、地域の活動団体や自

治会など地域活動への参加や役員等となると他の世帯に比べて少なくなる。種々の地域活動に関する調査結果では、近隣との親密な付き合いをしている人ほど自治会活動や地域の行事や祭りへの参加は多くなるのであるが、一人暮らし世帯ではこの結果に当てはまらない。また同居世帯も一人暮らし世帯と同程度かあるいはそれ以上に参加が少ない。

3 生活上の困り事

図7の通り、生活上の困り事は一人暮らし世帯や同居世帯に比べて夫婦のみ世帯が多く、「坂道・道路の傾斜」は居住地の環境条件を反映しているが、この環境条件により「買い物不便」「通院が不便」「交通が不便」等も多くなっていると同時に「救急・消防の緊急時の不安」が多い。以上、簡単に社会関係として近所の人との付き合い方、自治会活動への参加等について高齢者の一人暮らし世帯、夫婦のみ世帯、同居世帯を比較したが、一人暮らしと共に同居世帯も不活発であることが分かる。見守り等では一人暮らし世帯と夫婦のみ世帯に関心が向けられやすいが、家族が同居のために活動が低調な同居高齢者にもこの点で留意が必要である。

地域の社会関係で見ると、ソーシャル・キャピタルは「ある」のではなく、これまでも取り上げられた通り、現状では創るのであり、創るための方策が求められているのは自明である。

以上は、部分的に調査結果を紹介したにすぎないが、居住する地域や性別、年齢等の属性、あるいは居住歴により既にあるソーシャル・キャピタルや今後の必要なソーシャル・キャピタルが異なる。生活条件に応じた既存資源と今後創る必要のある資源を分析する必要がある。

図4 携わった地域活動の役員

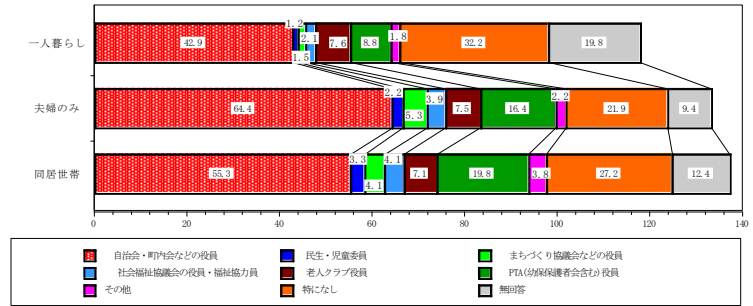


図5 地域の行事や祭への参加

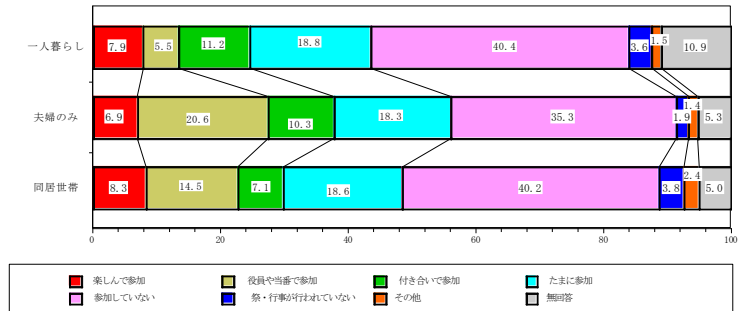


図6 現在・過去に参加したことのある団体

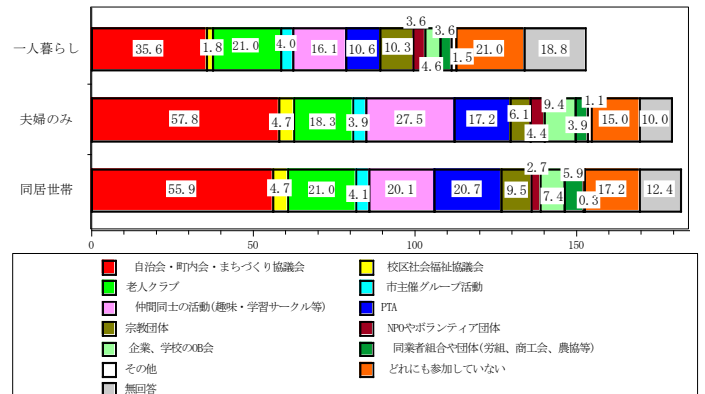


図7 生活上の困りごと

